

この山頂には岐阜城の門、井戸、要塞の遺跡が点在している。岐阜城は、最初に建築した二階堂氏によって稲葉山城と呼ばれる砦として始った。戦国時代（1467–1600）を通じて多くの氏族によって強奪され占領された。岐阜城はその眼下に広がる肥沃で豊かな濃尾平野を支配できるため、占有者にとっては非常に重要であった。岐阜城を占領した個人や団体の多くは、城郭を広げ改修した。もちろんこの地を岐阜という現在の名前をつけた織田信長（1534–1582）も同様である。織田信長は戦国時代を終結させ、全国を平定し、江戸時代（1603–1867）に導いた三英傑の最初の人物である。

織田信長は1567年に岐阜城を支配し、再建し、要塞を強固にし、新しい宮殿を建造した。信長は西洋文化と技術に興味を持ち、ヨーロッパ人に城を訪問するよう招待した。彼のゲストの一人、ポルトガル人宣教師ルイス・フロイス（1532–1597）は、城の上部は信長の信頼する家臣だけでなく彼の招待者も入場可能であったと記した。フロイスはまた城の上部で武者、使用人、人質を含む何百人もの人々を見たと言っている。フロイスは日記の中で岐阜城の豪華さを説明し、部屋は「金箔の襖で飾られ、鍵と金具は純金でできていた」と書いている。

1582年に信長が亡くなった後、岐阜城は信長の後継者たちによって支配されたが、1600年、徳川家康（1543–1616）の攻撃によって落城した。間もなく家康は彼の幕藩体制による日本全国の統一を完成した。